

<論文>

オリジナルYouTube動画を活用した教育効果に関する調査研究 —医療・福祉領域で学ぶ学生アンケートの結果から—

鈴木 和¹⁾、和泉 亮²⁾、野崎 裕之³⁾

要旨

2020年以降の新型コロナウイルス感染症の広がりによる社会の変化は、現場実習や現場見学等が中止されるなどソーシャルワーカー養成課程における学生の学習機会に大きな影響を与えた。そのような状況を危惧した筆者らは、フクシのみらいデザイン研究所の和泉が中心となり、教材制作を目的として全国各地のソーシャルワーク実践者を取材した動画を制作しYouTubeにアップする活動を始めた。

主にソーシャルワーカー養成課程における授業の振り返りにおいて、動画を視聴した学生から「今まで知らなかった働き方やフィールドを知ることができた」「自身のキャリアを考える際に役立ちそう」といった意見があったことから、制作したオリジナルYouTube動画に関する受講生の意見を、今後のよりよい動画教材作成および教育機会の提供につなげたいと考え、受講生に対してGoogle Formsを用いた無記名のアンケート調査を実施した。

協力が得られた3つの養成校から計104件の回答があった。社会福祉士取得を目指している学生が72.1%、精神保健福祉士取得を目指している学生が46.2%、他（複数回答可）であった。

アンケートの結果から動画教材を用いることは、学習や就職へのイメージを持つことに良い影響があると考えた。一方で、動画教材を授業内でどのように用いるか、領域や構成なども検討が必要であることがわかった。今後の有効な活用方法も含めて引き続き調査を進めていきたい。

キーワード：専門職養成、動画教材、教育効果、YouTube、学生の関心

I. はじめに

1. YouTube動画活用の社会的背景と変化する機能

2020年2月頃より新型コロナウイルス感染症の広がりが日本国内でも確認されるようになり、新しい生活様式が求められる社会の大きな変化があった。その影響はソーシャルワーク養成過程における現場実習および見学等の学生の学習機会にも大きな影響を与えた。

2020年7月に日本ソーシャルワーク教育学校連盟より

報告された「COVID-19の感染拡大に伴う社会福祉士・精神保健福祉士養成課程への影響」の結果によると、「すべて実習で実施する」が40%、「一部実習で、一部を実習代替プログラムで実施」が19%、「実習を行う方針だが、第2波等に備え、実習代替プログラムの検討を行っている」が19%、「実習の時期や規模は未定のところがあるが、できる限り実習で行う方針である」が16%、「すべて実習代替プログラムで実施する」は8%、「その他」が1%であった。

十分な学習機会が準備できないことを危惧した共同筆者の和泉は、全国各地のソーシャルワーク実践者を取り上げ、取材を通じて動画を制作しYouTubeにアップロードする活動を始め、それを講義において動画教材として

- 1) 北海道医療大学看護福祉学部
- 2) フクシのみらいデザイン研究所
- 3) 医療創生大学看護学部

活用してきた。

2. 動画コンテンツを活用した先行研究

Googleが発表するデータから、動画コンテンツが人々の身近な存在となり、YouTubeが日常生活に欠かせないプラットフォームになりつつあることが窺える。2020年9月の日本におけるYouTubeの月間利用者数は6,500万人を超えた。新型コロナウイルス感染症による外出自粛の影響で、自宅で過ごす時間が増え、動画配信サービスや動画共有サービスを利用する人が増えた。YouTube動画利用者の74%が「利用が増えた」と回答しており、18～64歳という幅広い年齢層でYouTubeは「なくなったら最も寂しいプラットフォーム」と回答している（中村2020）。

近年、アクティブラーニングが注目され講義形式だけではなく受講方法としてさまざまなツールが活用されている。動画教材もその一つとして多く制作されており、オンライン講義が積極的に行われたこの2年間でも、本研究の取り組み以外でも講義内容を録画した動画教材は多数制作され、その効果に関する研究も多く取り組まれた。

しかし、ソーシャルワーク実践などについて、その実践者の過去の生き方や現在までのプロセス、実践を通じた多くの関係者との相互作用など、ドキュメンタリー形式で動画を制作し教材として取り上げたものはなく、またその効果についても検証がなされていないのが現状である。

II. 方法

1. 研究対象およびデータの収集方法

和泉・鈴木が所属している養成校における講義科目のうち、2021年4月～2022年3月の期間に、講義内でオリジナルYouTube動画を視聴した対象者に対してアンケート調査を実施し、その解答を分析した。アンケートはGoogle Formsを使用した。

アンケートの回答期間は、2022年6月30日から7月27日であった。

2. アンケート項目

質問項目としては、回答者の基本情報（学年、取得予定資格、職場見学実習の有無、日常の動画視聴状況等）の他に学習効果およびキャリア志向性についての質問項目を設定した。

具体的には、学習効果については、動画視聴が授業の理解に役立ったか、その理由。また授業内容の学習、理解を考えた場合、どのような動画教材をみたいか、具体

的な改善案や要望（テーマ、時間、地域等）、などである。キャリア志向性については、動画視聴が自分自身のキャリア選択・就職活動の参考になったか、その理由等などについての回答を求めた。

なお本論文では、学習効果と学生が求める動画教材への意向について分析した。

3. 分析方法

Google Formsに回答のあった104件について、選択質問項目については記述統計を実施し、自由記述については研究者間で検討のうえ質的記述的に分析を行った。

4. 倫理的配慮および個人情報の取り扱い

アンケート対象者（学生）には文章にて個人情報に関する説明とともに、本調査への協力はあくまで任意であり、回答者の自由意思に基づいて協力を求めることを説明した。情報は個人が特定されない形で処理をし、また管理については筆者らのみがアクセスできるフォルダにて管理を行った。

なお、本研究は北海道医療大学看護福祉学部・看護福祉学研究科倫理審査委員会の倫理審査を経て実施した。（承認番号21N027028）

III. 結果

1. 回答者数および目指す資格

協力が得られた3つの養成校から計104件の回答があった。

目指している資格では、社会福祉士が72.1%、精神保健福祉士が46.2%、言語聴覚士が15.4%、介護福祉士が3.8%、他（複数回答可）であった（表1）。

表1 取得を目指す資格（複数回答可）

資格名	回答数	割合
社会福祉士	75	72.1%
精神保健福祉士	48	46.2%
介護福祉士	4	3.8%
言語聴覚士	16	15.4%
資格取得は考えていない	8	7.7%
その他	3	3.0%

2. 学習効果と自己成長に関する回答

「動画視聴が授業の理解に役立ったと思うか」については、「とても役立った（46.2%）」、「まあまあ役立った（43.3%）」、「どちらでもない（9.6%）」であった。

「どのような内容の理解に役立ったか（複数回答可）」については、「職場・現場の雰囲気（72.1%）」、「ソーシャルワーカーの働き方（57.7%）」、「ソーシャルワーカー

の視点 (51.9%)」と続いた。

さらに「具体的に動画のどのような点が役立ったと思うか」という質問の自由記述回答について分析を行った。回答記録を研究目的に沿ってコード化したものを、KJ法を援用して分類し135のラベルを生成した。生成したラベルを意味内容ごとに分類した結果、《主に学習効果に関する回答 (66ラベル)》《主に自己成長に関する回答 (56ラベル)》《その他 (13ラベル)》という3つの大カテゴリー、【ソーシャルワーカーの専門性・視点を知ること】【ソーシャルワーカーの働き方、実践を知ること】【現場の雰囲気を知ること】【当事者や対象者を知ること】【知識の向上】【意欲の向上】【自己理解】【動画教材だからこそ感じられた自己成長】【その他】という9つの中カテゴリーに分類することができた。以下、本論文では大カテゴリーを《》、中カテゴリーを【】で示し、データとして抽出した記述は□で示す(表2)。

3. 教材への意見、要望、改善点など

「授業内容の学習、理解を考えた場合、どのような動画教材がみたいか」という質問の自由記述回答について分析を行った。「学習効果と自己成長に関する回答」と同様に回答記録を研究目的に沿ってコード化したものを、KJ法を援用して分類し66のラベルを生成した。

生成したラベルを意味内容ごとに分類した結果、《主に動画内容に関する回答 (50ラベル)》《主に動画の構成等に関する回答 (16ラベル)》という2つの大カテゴリー、【分野・領域】【取り組み・活動・実践】【制度や歴史】【地域】【動画時間】【その他】という6つの中カテゴリーに分類することができた(表3)。

IV. 考察

1. 学生アンケートの回答のまとめ

まず「主に学習効果に関する回答」については、学生が動画教材を用いた講義で「どのような点が役に立ったと思うか」について分類した結果、【専門性・視点】【働き方、実践】【現場の雰囲気】【当事者、対象者】について知ることに関わったことがわかった。

回答者はコロナウイルス感染症により、十分に実際の現場を見ることが難しい環境に置かれている中で、動画を通して「ソーシャルワーカーとしてのやりがいや苦勞を知れるところ。利用者から学ぶことがあること。仲間での支援を行うことの大切さを知れること」[実際に働いているソーシャルワーカーの方が大切にしていることがわかった] [実際にソーシャルワーカーがどのような場所で仕事をしてるのかを知ることが出来た] [普段見られないような、ソーシャルワーカーの働き方の細かな

ところまで見る事が出来た] など、動画を通して実際に働いているソーシャルワーカーのインタビューを聞くことで、ソーシャルワーカーの【専門性や視点】だけでなく【働き方・実践】を知れる部分があったことがわかった。さらに、[実際に働いている姿を見て、もし自分が働いたらどんな風かイメージできる] [専門職とのかかわりや、自分の将来、キャリアについて考えさせられた] [現場で働いている人は学校生活では見られないので、自分の将来について想像しやすかった] など、【現場の雰囲気】【当事者や対象者】を知ることができ、動画に出てくるソーシャルワーカーに自分を重ねることでキャリアについてまでイメージをつなげられることがわかった。

次に「主に自己成長に関する回答」については、主に「知識の向上」に関する回答が多かった。[それぞれの福祉施設等で何を行っているのかなどについて知ることができ、授業内で考えていたことに加えて視野が広がる] [様々な職種で、様々な職員さんの価値観を知ることが出来る] などの回答があった。また、[自分の知らなかった分野や今まで関心を持ってこなかった分野など、この動画が無ければ知ることがなかった知識をたくさん知ることができた] や [福祉と医療だけではなく農業とミックスさせることもできると知り、視野が広がった] など講義として動画を視聴することで個人では関心がない分野・領域についても知ることができたことも知識の向上につながったと考えられる。さらに [福祉学科しか受からなかったので仕方なくこの大学に来たこともありあまり福祉には興味はありませんが、ものによっては少し興味を持つことが出来ました] [自分がソーシャルワーカーとして働くときに働き方のさまざまな可能性を見出してくれた] などの回答から、自分の知らない取り組みを知ることによって意欲の向上につながったとも考えられる。

「その他」では、[話すテンポがちょうどよく、聞きやすいため、動画を見続けることが苦痛にならない] [いつもYouTubeを見る感覚で楽しく見る事ができた] [言葉が簡潔になっていたことで、理解しやすくなっていた] など、動画自体に関する回答があった。

2. 学生が求める動画教材について

「主に動画内容に関する回答」については、[A市がおこなっている福祉] や [B市の施設を紹介してほしい] という回答者が住んでいる、もしくは関心のある地域の取り組みについての希望や、[施設や病院の夜間の様子] や [NPOやフリーで働いている精神保健福祉士の方のお仕事について] など、さまざまな内容の希望があった。ソーシャルワーカーの働き方、活動領域が広がりを

表2 具体的に動画のどのような点が役立ったと思うか

数字はラベル数	カテゴリー		※自由記述より
	<<大>>	[中]	
66	8	専門性・視点を知る	ソーシャルワーカーの考え方がわかった
			ソーシャルワーカーとしてのやりがいや苦労を知れるところ。利用者から学ぶことがあること。仲間での支援を行うことの大切さを知れること
			ソーシャルワーカーの考え方
			ソーシャルワークを行う上でクライアントだけではなく、地域にも介入していかなければならないことがわかった
			実際に働いているソーシャルワーカーの方が大切にしていることがわかった
			資格者からみて利用者に対する考え方
			社会復帰という言葉ではなく社会進出だという向谷地先生の言葉の選びが、対象者に与える印象を良いものにしていて素晴らしいと感じた
			人が精神的に病んでしまう原因はその人が関係する地域の中にあると思った
	18	働き方、実践を知る	ソーシャルワーカーの働き方がわかった
			実際にソーシャルワーカーがどのような場所で仕事をしているのかを知ることが出来た
			普段見られないような、ソーシャルワーカーの働き方の細かなところまで見る事が出来た
			実際に働いているソーシャルワーカーの実践が見れた
			様々な形でソーシャルワークを行なっている事業所の方の話を開ける
			実際に働いている姿を見て、もし自分が働いたらどんな風かイメージできる
			実際に働いているワーカーと同じ目線でインタビューしていたため、雰囲気も掴むことができた
			有資格者からみて利用者に対する働き方等が知れた
			福祉、医療施設は実習以外で普段行く機会もなく、従事している人とも会う機会がないため、動画を通して専門職の方のお話を聞けることが役立ちました
			当事者研究についてのルールや、行う意義を知れた
			どのような活動が存在するのか知ることができた
			専門職の話が開ける点
			それぞれの仕事の内容を知ることができた点
			専門職とのかかわりや、自分の将来、キャリアについて考えさせられた
			現場で働いている人は学校生活では見られないので、自分の将来について想像しやすかった
			どのような視点で働くのかや、一つの仕事にこだわらずに、フリーランスで働くことの意義を学べた
			自分の進路の拡大
			自分の将来の材料になりました
	27	現場の雰囲気を知る	現場の雰囲気や働き方について職員さんの生の声を聞くことができた
			現場のリアルを知ることができた
			コロナ禍で見学に行ける機会が少なかったため、動画を通して雰囲気を味わうことができた
			施設の様子動画
			現場のリアルを知ることができた
			映像として、リアルな現場を見られたので理解するのに役立ちました
			コロナ禍で、外出が自粛されていた中、映像教材のおかげで現場の雰囲気を掴めた
			実際の現場を知ることができ、また、設立の由来なども知ることができた
			授業だけではわからないことを動画を通してリアルに知れる
			その施設の雰囲気や、そこで働いている方々の人柄などが伝わってきてイメージがしやすかった
コロナ禍で施設見学などはほとんど行ったりしてなかったため、雰囲気が知れた			
具体的にどんな活動をしているのかイメージを持ちやすかった			
座学のみでは具体的な想像がつかず、ほんやりしたイメージでしたが、動画によって雰囲気などを理解出来た			
施設だけではなく職場の多様性を学べる点			
目指している職業以外の働き方や雰囲気また、言語聴覚士などのリハビリの専門職との関わり方などを見ることができた			
いろんな人が思っていることを知れた			
職場の雰囲気作りや、関わり方、距離感などが将来的に役に立つと感じた			
病院以外にも、こんなに働く場所があるのだと思った			
実際の職場の場面や利用者の姿が見れる点			
いろんな事業をされている方を知り、様々な働き方を知ることができた			
動画内で実際に映像を見ることでどのようなことがされているのかがわかった			
職場の方がお話ししてくださるので、実際の声聞いて良いと思いました			
実際の現場の雰囲気等は講義では知らない情報だからこうして見れるとイメージが広がる			
施設のことに実際どういった雰囲気で働かれているかなどを見ることが出来る点			
分野は同じでも色んな働き方があることが学べて、視野が広がる			
知らない施設のことも非常にわかりやすい動画によって、理解することが出来ました			
どのような施設があるのか知れた			
13	当事者や対象者を知る	当事者主体という言葉はよく聞き、重要性も理解しているが、実際にどのような点を重視して行っているかを知れた	
		実際の利用者さんの様子を、見ることが出来たのが良かった	
		利用者がなまの杜クリニックを利用する前と比べ自分でネガティブな考え方が少なくなったことを自覚していることを知った	
		当事者研究が利用者主体で行われているところ、部屋を暗くするなど利用者に向けた環境を利用者と一緒に考えるところ	

主に学習効果に関する回答

数字はラベル数		カテゴリー	
<<大>		[中]	[ラベル] ※自由記述より
56	33	知識の向上	精神科デイケア。当事者研究で当事者の方々が主体である重要性
			当事者研究は実際にどのようなことをしているのか、動画などを通じて見たことがなかったので、今回動画を見て、イメージが付きやすかった
			直接のインタビューで当事者や対象者のことを知れた
6	意欲の向上	利用者さんや当事者研究の雰囲気が伝わってくる	
		当事者が自分自身の理解を深めるために会話を繰り返すことが必要と知れた	
		そこで働くソーシャルワーカーだけでなく、患者本人の話も聞いたこと	
12	自己理解	浦河べてるの家の動画を見てどのような雰囲気で行っているかがわかった	
		実際の現場の様子と、そこで働く人や利用者の方の声が反映されていた点	
		福祉施設等の職員さんとの関わりは簡単に取れるわけではなく、利用者さんの立場、思いをきくことができる	
			専門的知識の向上に役立った
			知らなかったことを動画で知れたため知識面で成長できた
			働いてる人たちの声が聴けるので、自分の知識を増やせる
			自分の知識にない事を動画でわかりやすく解説しているため、理解しやすかった
			自分の知らなかった分野や今まで関心を持ってこなかった分野など、この動画が無ければ知ることがなかった知識をたくさん知ることができた
			社員さんの悩みや思いを知ることができ自分ならどうするのかなということを考え、また、専門性などを知ることもできた
			専門用語などでいま概要が掴みにくかった際に、現場で働いている方々の説明や雰囲気などで把握できたため
			知識に変化があった
			様々な職種で、様々な職員さんの価値観を知ることが出来る
			いろいろな法人を知ることが出来た
			苦勞をみせるということは、自分の特性とどのように向き合うべきか意見を聞くことが出来る重要な機会になる
			当事者研究にて、誰かの苦勞が誰かの希望になるという言葉が凄く心に残った
			ネガティブは自分の宝物だ。という考えが良いと思った
			こういった形のソーシャルワークもあるのだと進路の参考になった
			今まで知らなかったことを知れた
			福祉や新たな魅力に気がつくことがあったため
			それぞれの福祉施設等で何を行っているのかなどについて知ることができ、授業内で考えていたことに加えて視野が広がる
			精神障害については分からないことが多く、病名は医師による診断名だけだと思っていたが、自分で病名をつけることで気持ちを落ち着かせることができる
			地域での支援や地域福祉について多様な方法があると知ることができた
			福祉と医療だけではなく農業とミックスさせることもできると知り、視野が広がった
			どのような見方をしたら良いか1つの選択肢として考えることが出来た
			福祉の中でも様々な分野が取り上げられていた点
			べてるの家では様々な仕事や交流等について知ることが出来て、べてるの家の特色を学ぶことが出来た
			講義だけではわからない福祉のリアルを知れた
			どのような施設があるのか、どんな人に必要とされているかなどを知ることができた
			どういう思いで施設を運営しているか知れた点
			仕事の幅の広さを知れた
			ソーシャルワーカーの活躍の場や雰囲気を知ることができた
			実際に働いている方の話を聞くことができた点
			こういう風な事を行なっている会社があることや、どのような理念の元で行なっているのか勉強になった
			当事者研究の重要性が理解できた
			デイケアの例として挙げられた同じ悩みの人がいることを知る、仲間を作る、などのことはデイケアだけでなく全ての支援で生かせると思った
			直接福祉で働く人の声や様子を見ることができて、リアルを感じられる
			当事者研究をやってみたくて思う気持ちは強くなりました
			福祉学科しか受からなかったことで仕方なくこの大学に来たこともありあまり福祉には興味はありませんが、ものによっては少し興味を持つことが出来ました
			自分がソーシャルワーカーとして働くときに働き方のさまざまな可能性を見出してくれた
			いろんな場所に取材に行っていて、活躍の場は様々あるということが分かった
			将来働いた時の考え方のひとつとして役に立つと感じた
			ファシリテーターができるように学びたいと思う気持ちは強くなった
			すぐに理解、納得出来た部分とすぐには出来なかった部分があった
			自分の知らなかった可能性を学べた
			考え方に変化があった
			自分が福祉を目指すべきかどうかについて考えるきっかけになった
			自分の将来の働き方を考えさせられる点
			新たな視点の発見
			働き方が見れて以前より将来像を考えやすくなった
			働き方にとらわれなくてもいいと思えた
			働いてる人たちの声が聴けるので、自分の視点を広げられる

数字はラベル数		カテゴリー		[ラベル] ※自由記述より
<<大>	[中]			
5	動画教材だからこそ感じられた自己成長		実際に現場で働いている方の仕事や利用者に対する考え方を聞くことができ、自分の視野が広がった	
			自分以外の人の考え方、生き方、生活の仕方を知ることができたという点で参考になった 自分の中で不明瞭なところを自覚する事ができた	
13	13	その他	インタビューの項目があるので、着眼点をはっきりしており、わかりやすかった	
			講義よりも動画の方が内容が入りやすかった	
			行かないとわからない所を動画で知ることができるのは役立ちます。また見たいところを見れるのが良い	
			専門職としての役割を実際支援している場面から学ぶことができる点	
			動画を通して実際に働いているソーシャルワーカーをみて授業で学んだことに説得力が増す	
			そう感じたから	
			自己の不安や悩みを共有し合うところ	
			障害を持っていても安心して働ける場所があること	
			地域の特産物などその地域にあったものを活用して社会進出を目指す姿勢が素晴らしいと感じた	
			放課後デイサービス	
			いつもYouTubeを見る感覚で楽しく見る事ができた	
			所々に説明が入っていた点	
			実際になぜ活動を始めたのかの経緯やスタッフの思いなどを聞くことでより興味を持って動画を見ることができ	
話すテンポがちょうどよく、聞きやすいため、動画を見続けることが苦痛にならない				
当事者研究を支えるファシリテーターから見た話を聞いたこと				
している実践が人物とともに具体的に動画になっていた点				
生の声がかけて、イメージしやすいところ				
言葉が簡潔になっていたことで、理解しやすくなっていた				

表3 授業内容の学習、理解を考えた場合、どのような動画教材がみたいか

数字はラベル数		カテゴリー		[ラベル] ※自由記述より
<<大>	[中]			
10	分野・領域		高齢と精神保健についての動画	
			小児の分野	
			児童分野にフォーカスを当てた動画を見てみたい	
			子育て支援や、子ども食堂などについて見てみたい	
			医療ソーシャルワーカーについて	
			地域福祉に関する動画	
			地方福祉について知りたい	
			地域福祉について	
			医療機関の動画	
			精神保健福祉士の業務内容や役割。利用者と関わっている場面	
利用者の声、いい点悪い点などを出した方が福祉に対して信頼度が上がる				
精神障害の方との関わり方				
施設で行っている内容や職員の仕事				
福祉職でキャリアを築いている人の話をきいてみたいです				
現在の、福祉の課題であったり、具体的にどーいった活動をしているなどの視点からも動画で見たい				
病気を持つ人との関わり方についての動画				
実際の当事者研究について				
精神分野での当事者研究や自助グループの話し合いの様子をフルで見たい				
当事者研究について				
意外な場所で活躍しているソーシャルワーカーについてももっとりあげてほしい				
NPOやフリーで働いている精神保健福祉士の方のお仕事について				
社会福祉士や精神福祉士の仕事は働く場所によって異なるので、実際の声を聞きたい				
福祉の分野ごとの施設の仕事の一日の流れ				
施設や病院の夜間の様子				
いろいろな当事者の話				
利用者視点の動画も見たい				
ニュースなどに取り上げられる内容についてソーシャルワーカーとしての視点で課題や現状、背景などさまざまな視点からの動画				
施設の様子を知りたいです。動いている人を見る方が理解しやすいと思う				
実際の当事者のインタビューなどで意見を聞いてみたい				
実際に利用者さんにインタビューしている映像など				
どんな施設があるのか				
社会福祉士の存在意義 海外と比較して知りたい				
6	制度や歴史		福祉制度	
			福祉の勉強を小学生でもわかるぐらい簡単に説明するかつ面白い	
			動画などで法律や制度に触れていただけたら関連して覚えられないのではないかと考える	
			昔から今までの福祉の変化がわかる動画	
			福祉が抱えている課題などについてもっと知りたい	
過去の社会福祉、精神保健領域のこと				

数字はラベル数		カテゴリー		
		<<大>>	[中]	
			[ラベル] ※自由記述より	
12		地域	自分の暮らす地域でどのような福祉活動がされているのか 面白い取り組みをしている地域、事業所 A市がおこなっている福祉 B市の施設を紹介してほしい 福祉の活動が盛んな地域と、そうではない地域の動画で何が違うのかなど比べてみたい C市が行っている福祉 地域特性のある取り組み 住んでいる地域の実践 地域特性のある取り組み 大阪の行きやすいところにある福祉施設について特集して欲しい D市やE都道府県の動画を増やしてほしい 自分が住んでいる地域の動画だと興味がわく	
16	10	主に動画構成等に関する回答	動画時間	もう少し動画時間が短ければ学生は見やすくなると思う 20分ぐらいがいい 15分から20分位 時間は15分ぐらいが一番見やすい 動画の時間は10分ぐらいが丁度いいと思う。教室を暗くするのでそれ以上の長さだと寝てしまいます。 10分程度だともう少し見やすくなると思う 10～15分がちょうどいい 20分ぐらい 短い動画の方が見やすい 10分程度だともう少し見やすい
	6		その他	多分今のままで大丈夫かと…思います 現在のような動画を継続していけばいい どんなテーマでも面白い スピーカーから出る音声を聞きとるのが苦手なので、なるべく全体的に字幕をつけてくれると嬉しい このYouTubeが1番いいと思う 動画上に説明としての文章が載せられることがあります。動画は進み続ける為、読みきれないことがある

見せる中で、社会福祉法人、NPO法人、行政・教育・医療・司法など、幅広い領域に学生の興味関心も広がっていることが分かった。

次に「主に動画構成等に関する回答」については、動画の時間は10分～20分が良いという回答が多かった。また、[スピーカーから出る音声を聞きとるのが苦手なので、なるべく全体的に字幕をつけてくれると嬉しい][動画上に説明としての文章が載せられることがありますが、動画は進み続ける為、読みきれないことがある]という回答があり、音声と字幕を用いた説明に関する課題がわかった。

動画教材を用いることは、学習や将来へのイメージを持つことに影響があることがわかった。その一方で、医療・福祉の専門職養成における動画教材を用いた教育効果について継続的に検証した報告は少ない。今後は学生だけでなく、実践者や養成校教員へのアンケートを通じて、動画教材を授業内外でどのように用いるか、取り扱う領域や構成なども引き続き調査を進めていきたい。

謝辞

本研究の調査データであるYouTube動画は共著者である和泉氏の活動・作業がなければ作成できず、調査も実施できなかった。多大な時間と労力を費やし作業を行っ

ている和泉氏に感謝申し上げます。と同時に、動画作成に協力いただいた様々な分野で実践されているみなさまにも感謝申し上げます。

【参考文献・資料】

- 中村全信 (2020). 月間6,500万ユーザーを超えたYouTube, 2020年の国内利用実態—テレビでの利用も2倍に. Think with Google. <https://www.thinkwithgoogle.com/intl/ja-jp/marketing-strategies/video/youtube-recap2020-2/>
- 笠原千絵, 山本秀樹, 加藤善子 (2008). 講義科目でアクティブ・ラーニングを可能にする基本構造: 社会福祉専門職教育関連科目における実践から. 関西国際大学研究紀要, 第9号, 13-23
- 井上健朗, 加藤慶, 藤田則貴ら (2021). e-ラーニング環境でのソーシャルワーク演習の教材開発研究—相談援助実習の学内実習実施報告—. 東京通信大学紀要, 第4号, 317-330.
- 神波幸子, 佐々木政人 (2011). ソーシャルワーク専門教育の教材研究 (2). 愛知淑徳大学論集福祉貢献学部篇, 第1号, 57-68.
- 吉村夕里 (2008). 当事者が参画する社会福祉専門教育—精神医療ユーザーと協働する視覚教材づくり. 京都文教大学臨床心理学部研究報告, 創刊号, 21-40.

岡部真智子 (2022). 大学生が制作する福祉・介護の魅力を学ぶ教材—FUKUSHI-ASOBI—. 福山平成大学福祉健康科学研究. 第17号. 123-132.
安部潤子, 宇坂徹, 片山達也ら (2017). 福祉教育授業

モデル動画コンテンツの作成—ラーニング・コモンズの活用を手がかりに—. 鳴門教育大学情報教育ジャーナル. No.15 (1). 1-6.

Survey Research on Educational Effectiveness Using Original YouTube Videos —Results of a Survey of Students Studying in the Medical and Welfare Fields

Wataru SUZUKI¹⁾, Ryo IZUMI²⁾, Hiroyuki NOZAKI³⁾

Abstract

Changes in society due to the spread of the new coronavirus after 2020 have had a major impact on learning opportunities for students in social work training programs, such as the cancellation of field training and field trips. Concerned about such a situation, the authors, led by Izumi of the Fukushino Mirai Design Institute, began to produce videos of social work practitioners from all over Japan and upload them to YouTube for the purpose of producing teaching materials.

In reviewing classes, mainly in the social worker training course, students who viewed the videos commented, “I was able to learn about work styles and fields I had not known before,” and “This will be useful when thinking about my own career.” Therefore, we conducted a questionnaire survey of the students using Google Forms, without their names entered, with the hope that the students’ opinions about the original YouTube videos would lead to the creation of better video teaching materials and educational opportunities in the future.

We received a total of 104 responses from three training schools that cooperated with us. 72.1% of the students were aiming to become social workers, 46.2% were aiming to become mental health workers, and others (multiple responses were possible).

When asked “What did you find useful in understanding the content (multiple responses allowed)?” 72.1% responded “Atmosphere of the workplace/field,” followed by 57.7% for “How social workers work,” and 51.9% for “Social worker’s point of view. When asked if the videos were useful for their understanding of the class, about 90% of the respondents answered “very useful” or “fairly useful,” and when asked if the videos were helpful for their career choices and job hunting activities, about 70% answered “very useful” or “fairly useful.”

The use of video materials was considered to have a positive impact on the students’ ability to visualize what it would be like to study and find a job. On the other hand, there were also comments such as, “I think I will grow if I use the contents of the videos in classes and discussions,” and “The videos were useful in that they raised many questions, but did not solve them,” suggesting the need to consider how to use the video materials in the classroom, including the domain and structure. Since there have been few reports of ongoing efforts to produce such video materials, we would like to continue our investigation, including effective ways to utilize them in the future.

Key Words : Professional training, video teaching materials ,educational effect, YouTube, student interest

1) School of Nursing and Social Service, Health Sciences
University of Hokkaido

2) fukushinomirai-design-lab.

3) Faculty of Nursing IRYO SOSEI UNIVERSITY